

SOKKIA AP シリーズ

反射プリズムシステム

取扱説明書

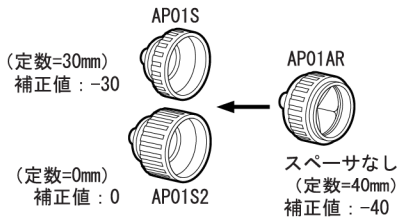
- この取扱説明書は、実際に機械を操作しながらお読みください。常に適切な取り扱いと、正しい操作でご使用くださいますようお願いいたします。
- 製品の外観・仕様および本書の内容は、改良のため、予告なく変更されることがあります。
- 掲載のイラストは、説明を分かりやすくするために、実際とは多少異なる表現がされている場合があります。
- 免責事項については、組み合わせてご使用になる製品の取扱説明書を参照ください。

- 湿気が少なく、室温が安定した場所に保管してください。
- 機械の回転部分・ねじ部分に異物が入ったと思われるときや、望遠鏡の内部レンズ・反射プリズムなどに水滴の跡やカビなどを発見したときは、最寄りの営業担当にご連絡ください。
- 機械を格納ケースから取り出す際、無理にひっぱりださないでください。取り出した後は、湿気が入らないようにケースは閉めておいてください。

プリズム定数補正值

反射プリズムには、それぞれプリズム定数があります。お使いになる測量機本体にプリズム定数補正值を設定してください。

・プリズムスペーサ (AP01S / AP01S2) でプリズム定数補正值を調整できます。



安全にお使いいただくために

本取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防ぐために、守っていただきたい事項が表示されています。その表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が予想される内容を示しています。



警告

- 格納ケースに本体を入れて持ち運ぶ際には、必ず格納ケースのロックを全て締めてください。本体が落下して、ケガをする恐れがあります。

△ 注意

- 格納ケースを踏み台にしないでください。すべりやすくて不安定です。転げ落ちてケガをする恐れがあります。
- 格納ケース本体やベルトが傷んでいたら本体を収納しないでください。ケースや本体が落下して、ケガをする恐れがあります。
- 垂球を振り回したり、投げたりしないでください。人に当たり、ケガをする恐れがあります。
- 整準台の着脱レバーを確実に締めてください。ゆるんでいるとハンドルを持ったときに整準台が落下して、ケガをする恐れがあります。
- 機器を三脚に止めるときは、定心かんを確実に締めてください。不確定だとプリズムが落下して、ケガをする恐れがあります。
- 機器をのせた三脚は、蝶ねじを確実に締めてください。不確定だと三脚が倒れ、ケガをする恐れがあります。
- 三脚の石突きを人に向けて持ち運ばないでください。人に当たり、ケガをする恐れがあります。
- 三脚を立てるときは、脚もとに人の手・足がないことを確かめてください。手・足を突き刺して、ケガをする恐れがあります。
- 三脚の持ち運びの際は、蝶ねじを確実に締めてください。ゆるんでいると脚が伸び、ケガをする恐れがあります。

使用上のお願い

取り扱いについて

- プリズムや機械を直接地面に置かないでください。土やほこりは機械の底板のねじ穴をいためます。
- 落下や転倒など、大きな衝撃・振動を与えないでください。
- 格納する時は、格納要領図に従って格納してください。

メンテナンスについて

- 作業中雨がかかった場合には、水分をよくふき取ってください。
- 測量終了後は、ケースにしまう前に必ず機械各部を清掃してください。特にレンズは、必ず十分に手入れをしてください。レンズ刷毛を使って細かな塵を払ってから、レンズに息を吹きかけて曇らせ、きれいな布（洗いざらしの木綿など）またはレンズ用のふき取り紙で軽くふいてください。
- 三脚は長期間使用すると、石突き部のゆるみ、蝶ねじの破損などが原因でガタが生じる場合があります。時々各部の点検、締め直しを行ってください。
- 機械やケースが汚れた場合は、水または薄めた中性洗剤に浸したやわらかい布を固く絞って汚れをふき取ってください。アルカリ性洗剤や有機溶剤は使用しないでください。

機械高アダプタ (AP41/42) の使い方

ターゲットの高さを調整するために使います。AP41 は着脱タイプ、AP42 はシフティングタイプです。

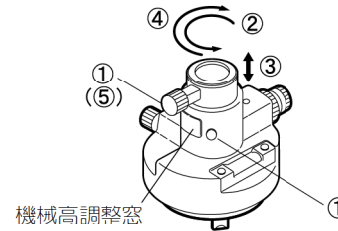
機械高は、お使いになる測量機本体に応じて 230 / 233 / 236 / 239 / 242 / 245 / 248mm を設定できます。

表にない機種については、本体の取扱説明書で機械高をご確認ください。

機種	数値
CX Series、FX Series、Series 50RX/50X、Series SRX	236mm
DX Series、SX Series	239mm
Series 110M、Series 230RM、SET3110ML、SET3110MV、NET1100M	245mm

- 2本の固定ねじ (①) をゆるめます。
ねじははずさないでください。
- 反時計方向に回し、調整できる状態にします (②)。
- ③の部分を上下させて、設定する機械高の数字を機械高調整窓に合わせます。
- 時計方向に回して固定します。(④)

- 2本の固定ねじ (⑤) を締めます。



- 機械高アダプタの気泡管や求心望遠鏡は、それぞれ測量機の横気泡管、求心望遠鏡と同様の方法で調整してください。
- お使いになる測量機本体の取扱説明書の、横気泡管と求心望遠鏡点検調整手順をご覧ください。

解説 測量機の機械高

機械高とは、底板から機械高マークまでの高さです。測量機には固有の機械高があります。お使いになる測量機本体の取扱説明書をご確認ください。

反射プリズムシステム

右のイラストは一例です。プリズムやその付属品はすべて標準ねじを使用しておりますので、組み合わせが自在です。



トプコンホームページ <http://www.topcon.co.jp>

株式会社トプコン 本社 〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75-1

株式会社トプコンソキアボジションングジャパン

本社 〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75-1

※ 当社連絡先詳細は、当社ホームページをご覧ください。

©2013 TOPCON CORPORATION
ALL RIGHTS RESERVED
無断複製及び転載を禁ず